

平成30年11月6日

保護者 様

田村市立都路中学校長 田中 淳一

### 平成30年度 前期学校評価結果のお知らせ

深秋の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校教育活動へのご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、前期学校評価の集計結果概要についてお知らせいたします。生徒及び保護者の皆様からのご意見を今後の学校経営・運営に生かしてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

#### ◎ 保護者及び生徒アンケートの主な結果と今後の対応

保護者及び生徒アンケート集計結果の一覧は、裏面にあります。

(A：よく当てはまる、B：やや当てはまる、C：あまり当てはまらない、D：まったく当てはまらない)

- (1) 「楽しく学校へ通っている」のA・Bの割合は、保護者・生徒ともに9割である。今後は、C・Dと回答した生徒への個に応じた対応・支援をするとともに、めざす学校像（志を育む学校、学び合い高め合う学校、信頼され愛される学校）の具現化を図る取組を継続したい。
- (2) 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」のA・Bの割合は、保護者・生徒ともに7割程度である。今後も、苦手なことや困難な課題、新しいことにチャレンジできる意欲を育む取組を継続したい。
- (3) 「授業が楽しく、よく分かり、学力が高まっている」のA・Bの割合は、保護者6割・生徒7割程度である。また、「教職員は、分かる・できる・楽しい授業をするために、努力や工夫をしている」のA・Bの割合は、保護者8割・生徒9割程度である。今後も、学力向上に責任を果たすために、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善に重点的に取り組むたい。また、授業以外での発展学習や補充学習の機会を設けて、生徒が主体的に学習できるよう、さらには、個に応じた指導を充実させるようにしたい。
- (4) 「家庭学習に、計画的に工夫しながら取り組んでいる」のA・Bの割合は、保護者6割・生徒7割程度である。今後は、学力とともに自己マネジメント力を高めるために、家庭学習を効果的に活用した授業への改善、生徒自らがR-PDCAサイクルを機能できるようにするための支援、小学校や家庭との実効性のある連携をしたい。
- (5) 「地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある」のA・Bの割合は、保護者6割・生徒7割程度である。今後も、将来の目標や志を育み、社会的・職業的自立や確かな学力の向上の基盤となる基礎的・汎用的能力を身に付けられるようにするために、多様な主体（学校・家庭・地域・関係機関・NPO・企業等）の強みを生かしたキャリア教育を継続したい。
- (6) 「人前で自分の考えや意見を発表することは得意である」のA・Bの割合は、保護者・生徒ともに5割程度である。今後も、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力、人間性等を育むために、学校の内外において、個別で具体的な言語活動や実際的な言語活動を経験させる機会を数多く創り出したい。
- (7) 「教職員は、連絡や相談がしやすく、対応も適切である」のA・Bの割合は、保護者・生徒ともに8割程度である。また、「学校は、子どもたちのトラブルや問題に迅速・適切に対応している」のA・Bの割合は、保護者8割程度である。今後も、個に応じたきめ細かな学習指導、生徒一人一人を伸ばす積極的な生徒指導、家庭や地域、専門家、関係機関との連携・協力の下、諸課題への未然防止と早期発見、早期対応を行い、解決に努めたい。
- (8) 生徒及び保護者の皆様からいただいた、本校の教育活動に関する貴重なご意見を生かして、学校・家庭・地域等がそれぞれの役割に応じて、様々な課題に協働的に取り組むことができるようにしたい。